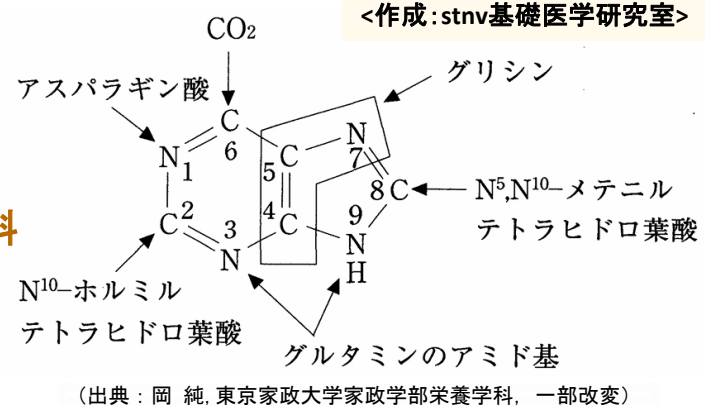
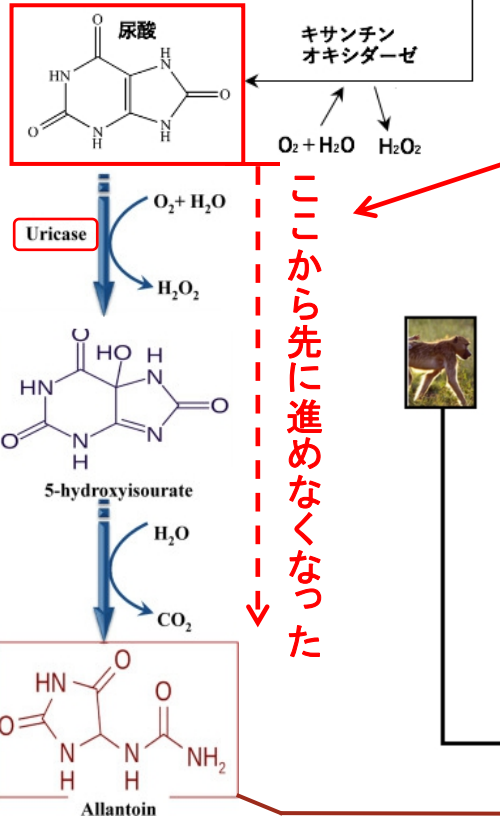
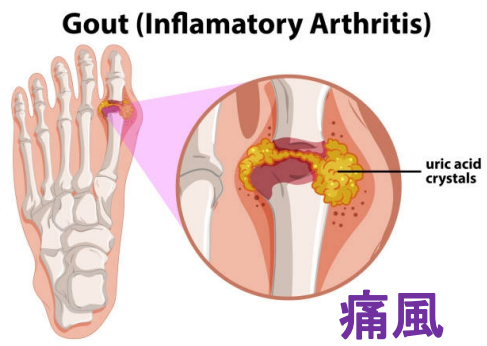


体内のプリン体は、食餌由来が1~2割。その他は、体内における新規合成、及びリサイクルによるものである。
 (右図には、新規合成の場合の原料になった物質が示されている)

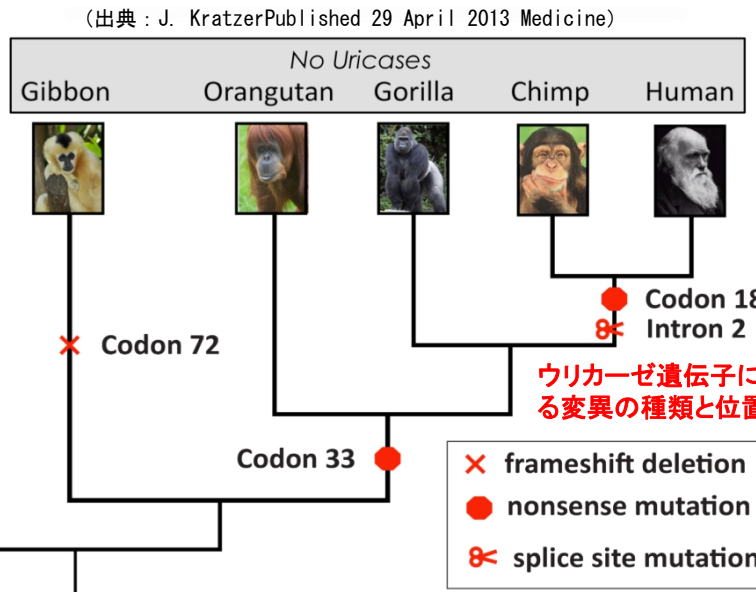


生物進化の過程において、私たちは尿酸オキシダーゼの酵素活性を失った。そのため、体内の尿酸濃度が高まることになった。

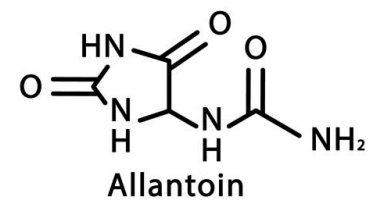
これによるメリット
 ビタミンCの代わりに、尿酸を抗酸化対策に用いることが出来るようになった。



ヒトと一部の霊長類は、尿酸をアラントインへと変換する酵素(尿酸オキシダーゼ(ウリカーゼ))の活性を失った。その時期は、ビタミンC合成酵素の活性が失われた時期に相当する。



これによるデメリット
 ① 痛風を発症しやすくなった。
 ② 尿酸の代謝産物であるアラントインが得られなくなった。



霊長類になってから得られなくなったということは、生物の歴史から見れば、あまりにも急激な出来事である。おそらく、その急変に適応できていない可能性がある。

実際にアラントインを人に与えてみると次のような効果が現れる。

1. 創傷治癒を早める効果
2. 皮膚や粘膜を保護する効果
3. 炎症やアレルギーを抑える効果
4. エストロゲン様作用

